

革命的社会民主主義者の活動の重点

ロシア社会民主労働党（ボ）前線および
後方軍隊内党組織全ロシア会議における
現在の情勢にかんする報告

1917年6月20日(7月3日)

簡単な新聞報道

午前の会議でレーニンが現在の情勢について報告した。彼は、今日と党四月協議会の時とを比較するとき認められる情勢の相違を指摘した。その当時は、個々の社会主義政党の立場は、まだほとんどはっきりしていなかった。いろいろの事件が進行中であつたりおこなわれたばかりという状況のもとで、いまようやく、メンシェヴィキとエス・エルの実際の政治的特徴が表面化した。だが小ブルジョアジーは、社会主義的ではないが、おそらく、真に民主主義的な気分であることを示すであろう。この見地からエス・エルとメンシェヴィキの大衆をみると、彼らには一貫した民主主義が欠けているとするわけにはいかない。ただし彼らの指導者についてはそうは言えない。だからわれわれは、エス・エルおよびメンシェヴィキの大衆と彼らの指導者とのあいだには、深い断絶が現われているのを見る。これら大衆の指導者は、社会主義を徐々に棄てているだけでなく、民主主義をも棄てている。このことは、社会主義者の大臣のとっている今日の三つの重要問題にたいする態度からうかがわれる。

土地問題では、政府の社会主義的な部分は、明らかに農民の観点からそれていて、地主がその所有地をこれまでどおり自分の宰^{さいりょう}領のもとにおこうとするのをたすけている。社会主義者の大臣の民主主義の第二の試金石となったのは、地方自治にたいする彼らの態度であった。地方では権力が人民自身によって選ばれねばならないという命題は、民主主義のイロハである。ところが、これが原因となって臨時政府と地方自治機関とのあいだに多くの紛争が生じ、内閣の社会主義的部分は、この真に民主主義的な原則に反対する積極的な闘士となった。最後に、第三の攻勢の問題がある。社会主義者ケレンスキーは、あからさまな帝国主義者グチコフのなしとげることができなかつたことをなしとげた。

われわれ革命的社会民主主義者は、民主主義的大衆の階級的自覚をはっきりさせることに活動をふりむけなければならない。だからわれわれは、小ブルジョア民主主義派のこれらのかつての指導者を容赦なく暴露し、革命的プロレタリアートが先頭きって進もうとするただ一つの道を民主主義派に示してやらなければならない。

第41巻『現在の情勢にかんする報告』P561

1917年6月20日(7月3日)

新聞『ノーヴァヤ・ジーズニ』第五四号のテキストによって印刷